

図画工作部会

研究主題 みずみずしい感性と、しなやかな造形思考を求めて
～生き生きと思いを表現できる子どもの育成～

1 主題について

今年度は、子どもたちの創造的な活動を一層促し、一人一人が生き生きと表現活動を楽しみながら造形活動の基礎的な能力を高めていくために、どのような支援が効果的かを研究するため、本テーマを設定した。

2 今年度の取組

月 日	実践内容	月 日	実践内容
4月11日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成	10月30日	第2回総合研究会 授業研究会（長木小学校）
9月18日	指導案検討会（長木小学校）		

3 研究内容

(1) 授業研究

- ・期 日 平成26年10月30日（木）
- ・会 場 長木小学校
- ・単元名 4年「ゆめいろらんど」
- ・授業者 新山 美穂子

① 授業者から

- ・子どもたちは造形活動が好きで、一生懸命取り組むが、自分の作品を客観的に見ることができないのではないかと考えた。また、アイデアにつまると、すぐ教師の助けを求めてしまう傾向も強い。そこで、今回は各班に「おためしボックス」を設置し、自分の作品の光の様子を確かめながら、友達とアドバイスし合って、自分の力で造形活動を進めてほしいと考えた。
- ・楽しい活動だが安全には十分配慮し、支援の先生の協力をお願いしたり、掲示物を工夫したりして、安全に活動できるよう示した。
- ・材料にあった効果的な接着も大事だと考えた。材料に合わせてセロテープ以外の接着方法も考えて使ってみよう声をかけた。

② 協議

- ・子どもたち一人一人の作品がどれも個性的。形も材料もバラエティに富んでいて、これまでの学びの場の充実、意欲を高める仕掛けのよさがうかがえる。
- ・「おためしボックス」を各班に設置したのはとても効果的であった。誰かが作品を試しているとき、自然に何人かが集まってきてアドバイスし合う様子が随所で見られた。子どもたち同士のアドバイスコナー、ヒントコーナーになっていた。
- ・評価が難しい。本時は何ができればよいのか、テーマを表すためにどんな技法を用いてい



【作りながらお互いにアドバイス】

るか、表現効果をねらって何を選んだのかなど、子どもの思いを見取るために学習カードにどんどん書きこんでいくなどの工夫があればよいと思う。

- ・最後の活動は鑑賞タイム。次の学習に生きる活動になっていた。友達の作品を見ることで「自分は次にこうしたい」という思いをもつことができていた。



【一人一人の思いが表れた作品】

(2) 指導助言（北教育事務所 指導主事 鈴木 正樹）

- ・子どもたちがよい表情で、夢中になって活動していたのが、本時のよさを表している。よく練られた指導案で、支援の手立てがしっかりと考えられていた。創造的な技能を發揮して、試行錯誤している場面が数多く見られた授業であった。
- ・「やりたいこと」ができる場の設定、材料の準備、安全への配慮がしっかりとされていた。
- ・この題材は「ランプ」なので、「光を生かす」という視点が大事。子どもたちは制作過程で様々な技能を發揮しているが、本体への装飾の技能に重きを置くのではなく、「自分のイメージする『ゆめいろ』を、より美しく光らせるために技能を發揮させる」という点をぶれないように支援、評価したい。
- ・最後に理科室に飾り台を作り、白布をかけ、全員の「ゆめいろらんぷ」を集めたのはとてもよい演出であった。照明を暗くして、一斉にランプを光らせたところは、子どもたちのわくわく感を引き出し、次時への意欲も高めていた。
- ・振り返りの場面は、友だちの作品のよさを探すと同時に、自分の変容も考えさせたい。そのために、授業の最初で自分のめあてを一人一人が意識しておくことが大事である。

(3) 実技研修

- ・今回の提案授業に関連して、「ゆめいろらんぷ」の題材について研修を行った。鈴木指導主事からご指導いただき、「光をより美しく見せる、光の動きや変化を生かす」という視点をもって教材研究をした。会員それぞれの工夫を紹介しあい、自分だけでは気付かない多くの工夫を学ぶことができた。今後の授業に生かすことのできる実践的な内容で、大変有意義であった。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・各班へのおためしボックスの設置、多様で豊富な材料コーナー、危険を伴う道具に配慮した安全コーナーの設置など、場の設定が充実していた。
- ・材料との関わりが十分だったことが、子どもの発想を引き出していた。
- ・子どもの作品を集めることで、全体として一つの作品のようになっていた。個の作品がまた違った作品に変化する面白さ、よさがあった。

(2) 課題

- ・めあてとまとめの整合性を十分に考えて、学習活動を設定していく必要がある。その題材、その時間に何をねらって何ができればよいのかをはっきりさせることが大事である。